

JVCケンウッド 決算説明資料

2021年3月期 第1四半期 (IFRS)

2020年8月3日

株式会社JVCケンウッド

事業内容

* 本資料の数値は全てIFRS（国際財務報告基準）となっています。

メディアサービス分野（MS）

■メディア事業

- ・ソリューション／ライフスタイル／ブランド
ビデオカメラ、ヘッドホン、プロジェクター、
ホームオーディオ、映像デバイス など

■エンタテインメント事業

- コンテンツ／受託ビジネス

パブリックサービス分野（PS）

■無線システム事業

- 業務用無線、アマチュア無線、
無線システム機器 など

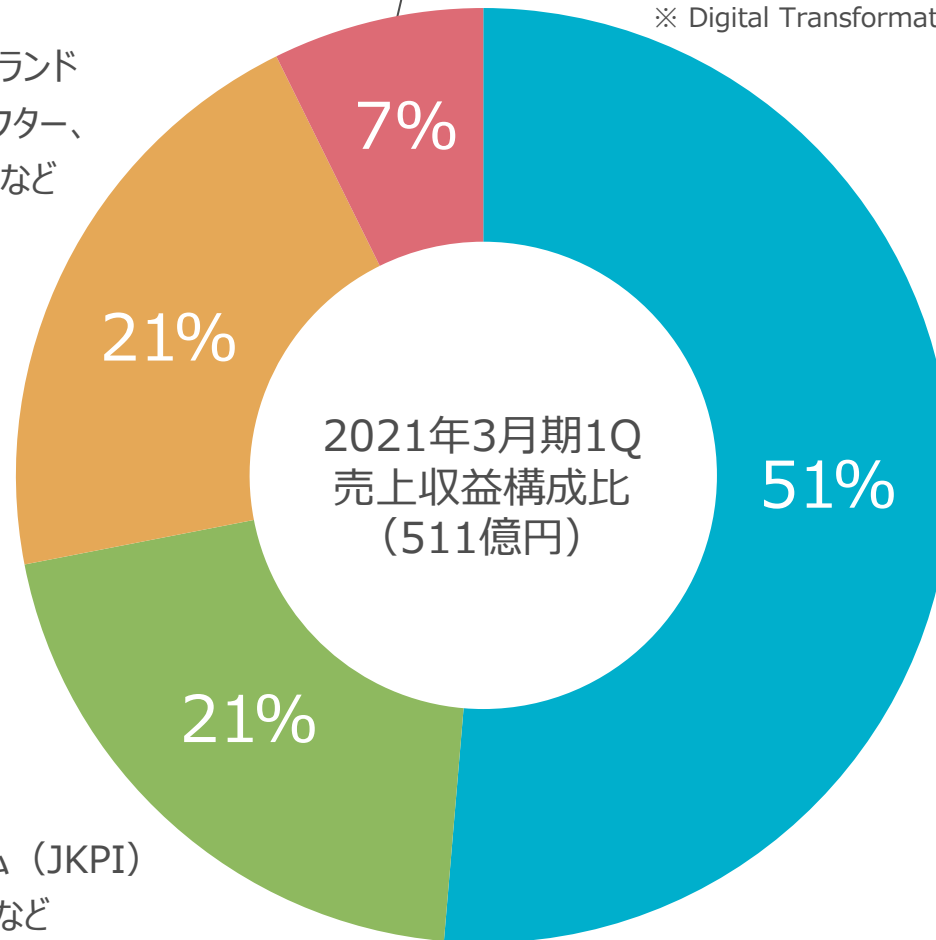
■業務用システム事業

- ・JVCケンウッド・公共産業システム（JKPI）
監視カメラ、業務用放送機器 など
- ・ヘルスケア領域
医用画像表示用モニター、エクソソーム解析システム、
ゲイズファインダー など

その他

■DX※ビジネス など

※ Digital Transformation



オートモーティブ分野（AM）

■アフターマーケット事業

- カーナビゲーション
- カーオーディオ
- ディスプレイオーディオ
- ドライブレコーダー など

■OEM事業

- カーナビゲーション
- ディスプレイオーディオ
- ドライブレコーダー
- 車載用カメラ
- 車載用CD／DVDメカ
- 車載用光ピックアップ
- 車載用スピーカー
- 車載用アンテナ
- 車載用アンプ など

1. 2021年3月期 第1四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. 今後の主な取り組み

4. With/After COVID-19

1. 2021年3月期 第1四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. 今後の主な取り組み

4. With/After COVID-19

2021年3月期1Q決算ハイライト

- 売上収益は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を各分野で受け減収
- コア営業利益は、減収の影響から減益
- 営業利益、税引前利益、四半期利益は、コア営業利益の減少などにより減益

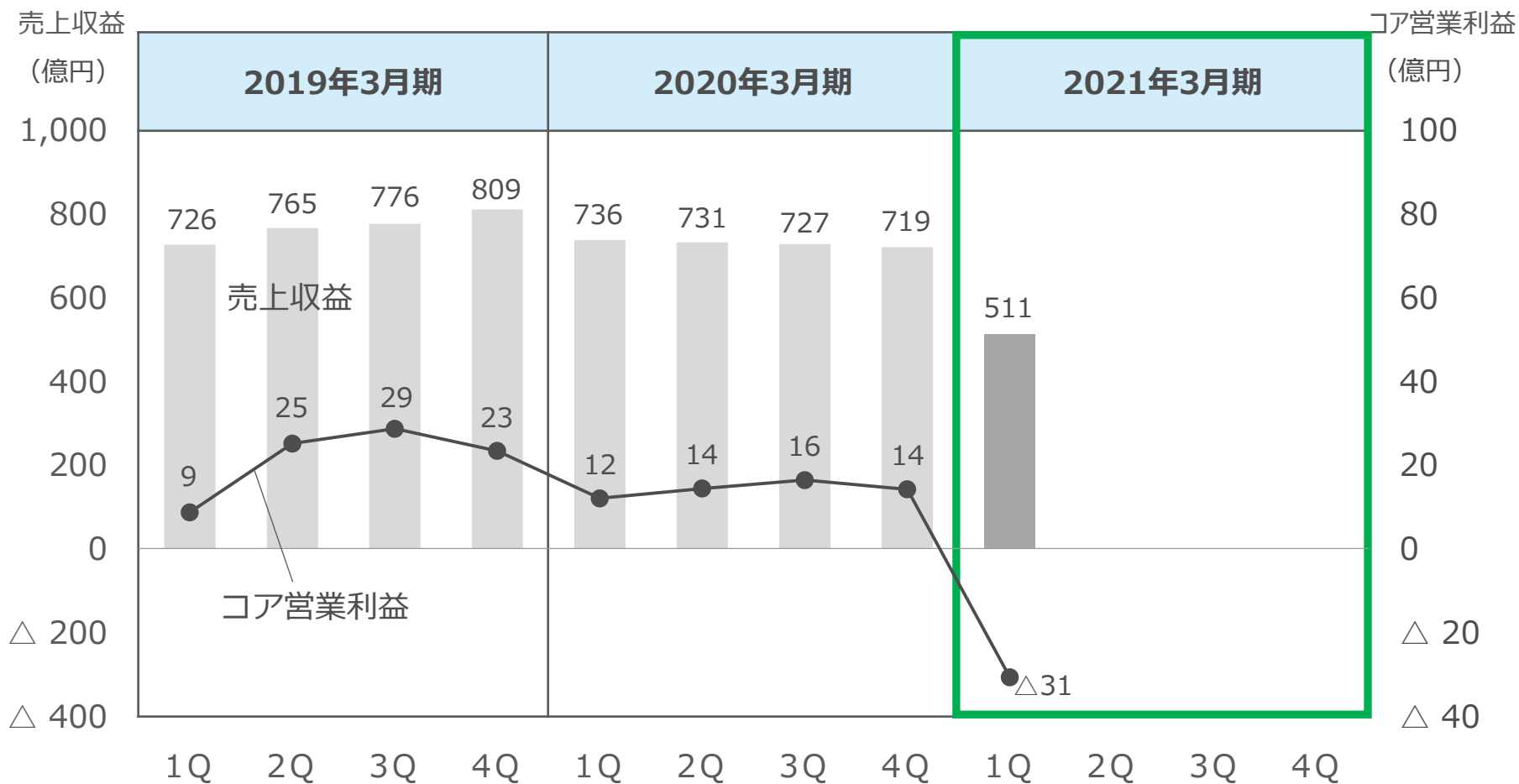
(億円)

	20/3期 1Q		'21/3期 1Q		前期差
		構成比 (%)		構成比 (%)	
売上収益	736	100.0	511	100.0	△ 225
売上原価	542	73.6	387	75.6	△ 155
売上総利益	194	26.4	125	24.4	△ 69
コア営業利益 [※]	12	1.6	△ 31	—	△ 43
営業利益	18	2.4	△ 31	—	△ 48
税引前利益	16	2.2	△ 31	—	△ 47
親会社の所有者に帰属する四半期利益	9	1.2	△ 36	—	△ 45

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

		'20/3期					'21/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	110円	107円	109円	109円	109円	108円	—	—	—	—
	1ユーロ	124円	119円	120円	120円	121円	119円	—	—	—	—

2021年3月期決算（四半期別）実績推移



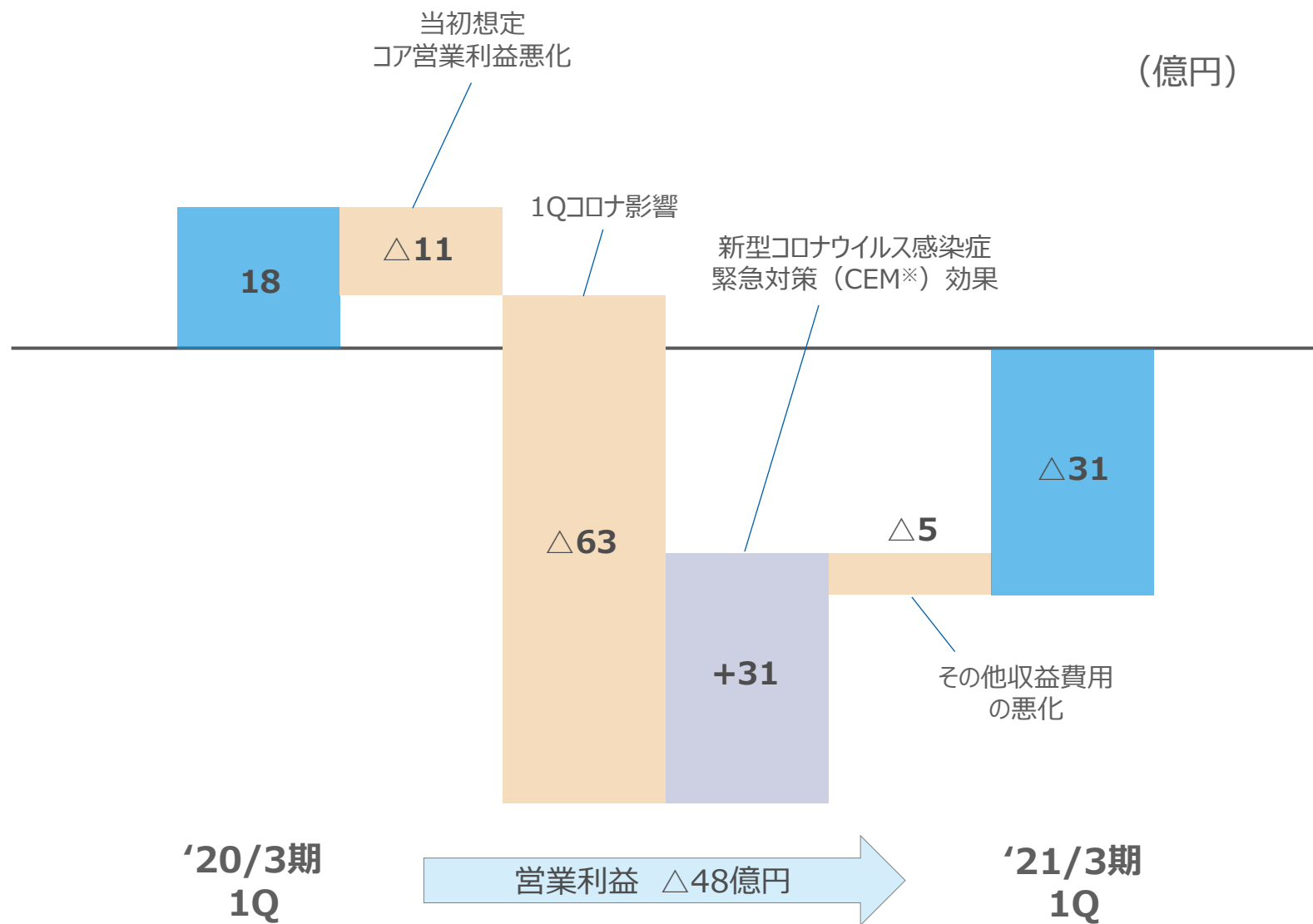
損益為替レート

	1米ドル	1ユーロ
1Q	109円	130円
2Q	111円	130円
3Q	113円	129円
4Q	110円	125円
1Q	110円	124円
2Q	107円	119円
3Q	109円	120円
4Q	109円	120円
1Q	108円	119円

(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,491	1,585	1,467	1,446	-	-
コア営業利益	34	52	26	31	-	-

2021年3月期1Q決算 営業利益増減（要因別）



※ CEM…COVID-19 Emergency Measure

新型コロナウイルス感染症の当1Qへの影響について

コロナ影響前予想からの影響額：売上収益△194億円、コア営業利益△63億円

■ オートモーティブ分野 売上収益△110億円、コア営業利益△34億円

アフターマーケットは、北米や欧州では市況が回復しつつあるものの、それ以外の地域での外出規制に伴い販売活動が停滞。OEMは、海外市場において5月以降自動車メーカーが生産を再開し始めたものの、依然として全世界レベルでの自動車販売低迷の影響を受けて販売縮小

■ パブリックサービス分野 売上収益△38億円、コア営業利益△10億円

無線システムは、主力工場であるマレーシア工場が3月末から4月末まで閉鎖となった影響により販売減少。業務用システムは、中心となる国内子会社のJKPI※が設備投資減少などの影響を受けて販売縮小

※ JVCケンウッド・公共産業システム

■ メディアサービス分野 売上収益△41億円、コア営業利益△17億円

メディアは、外出規制による販売店の閉鎖などの影響により、BtoC市場だけでなくBtoB市場も販売が減少。エンタテインメントは、アーティストのイベントやライブ中止による影響大

■ その他分野 売上収益△5億円、コア営業利益△2億円

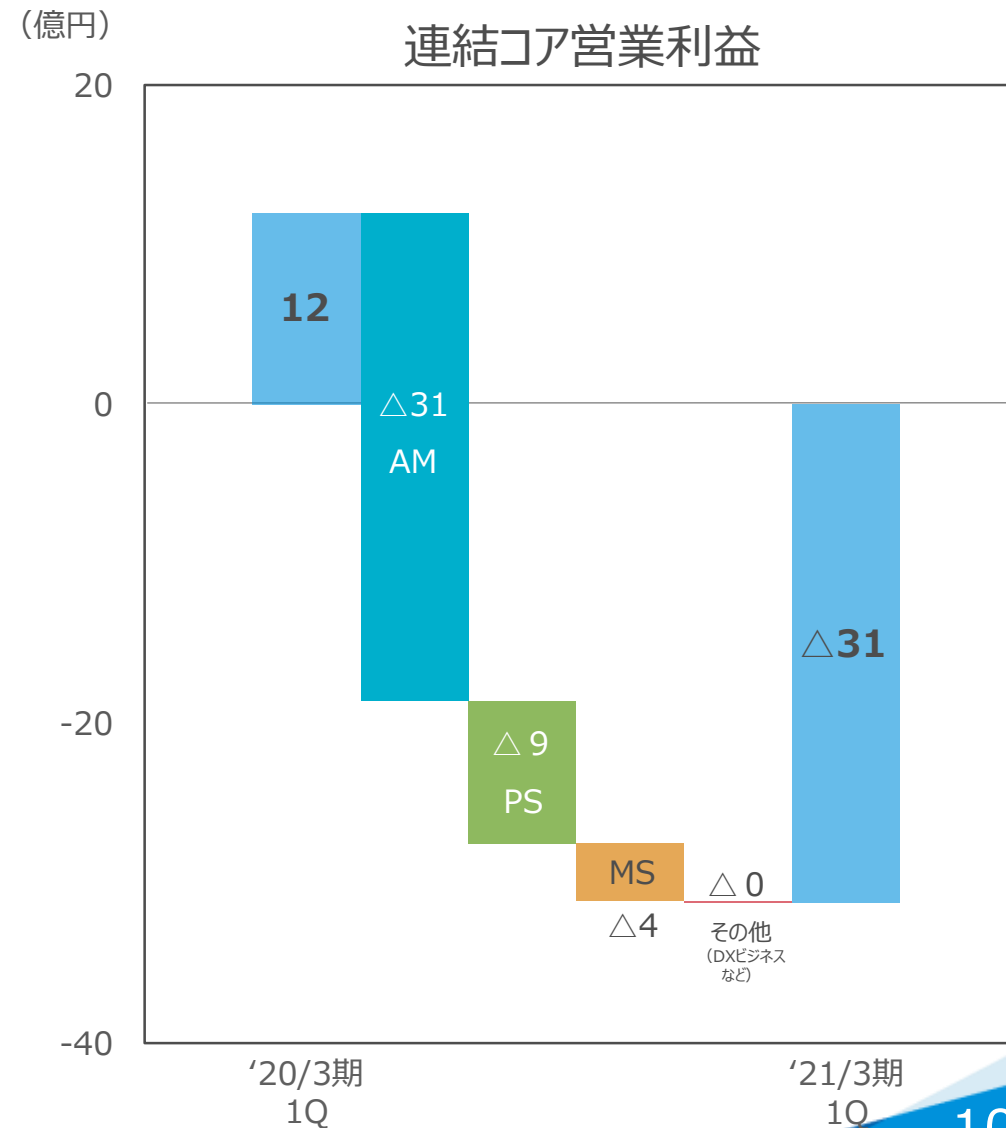
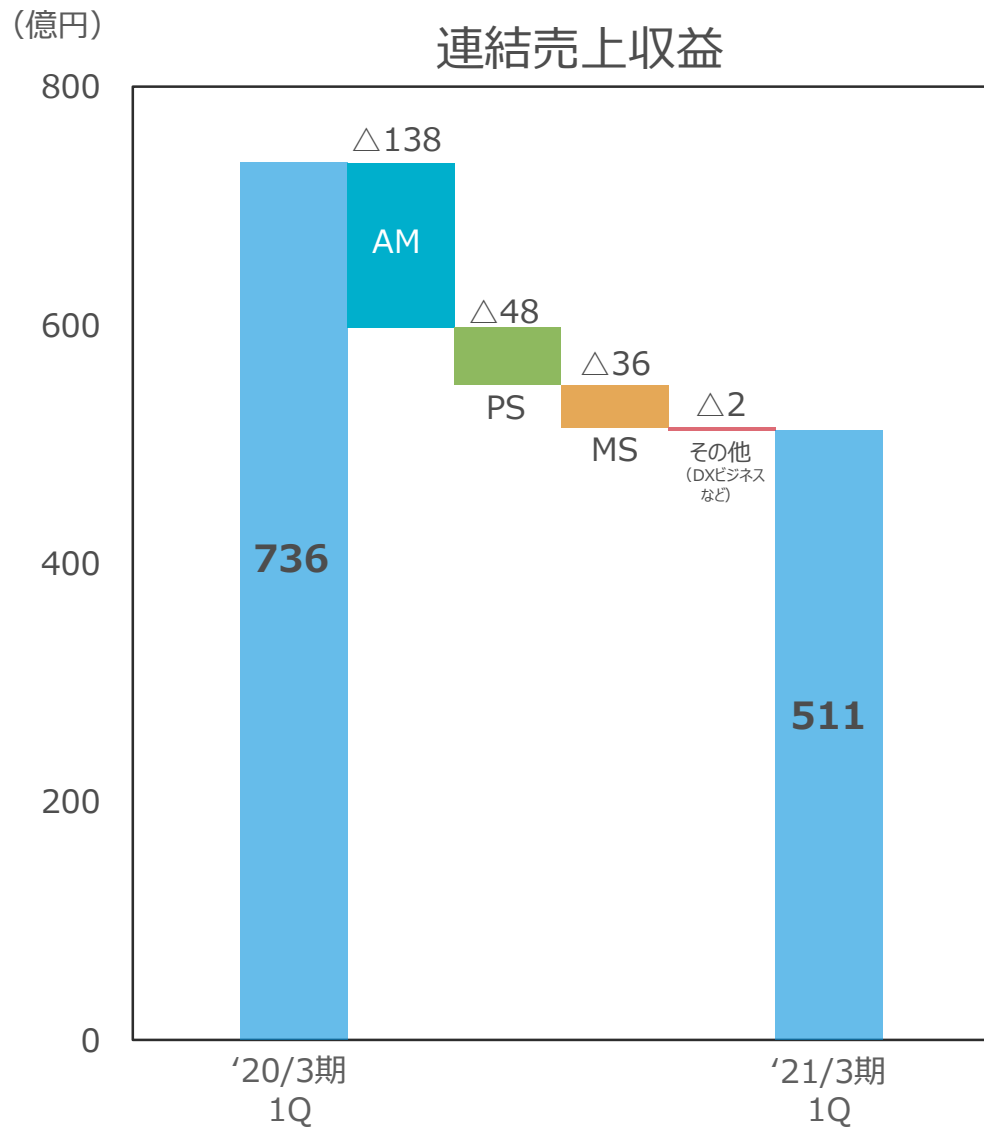
DXビジネスのテレマティクスソリューションは、好調な販売を維持

2021年3月期1Q決算 分野別の状況

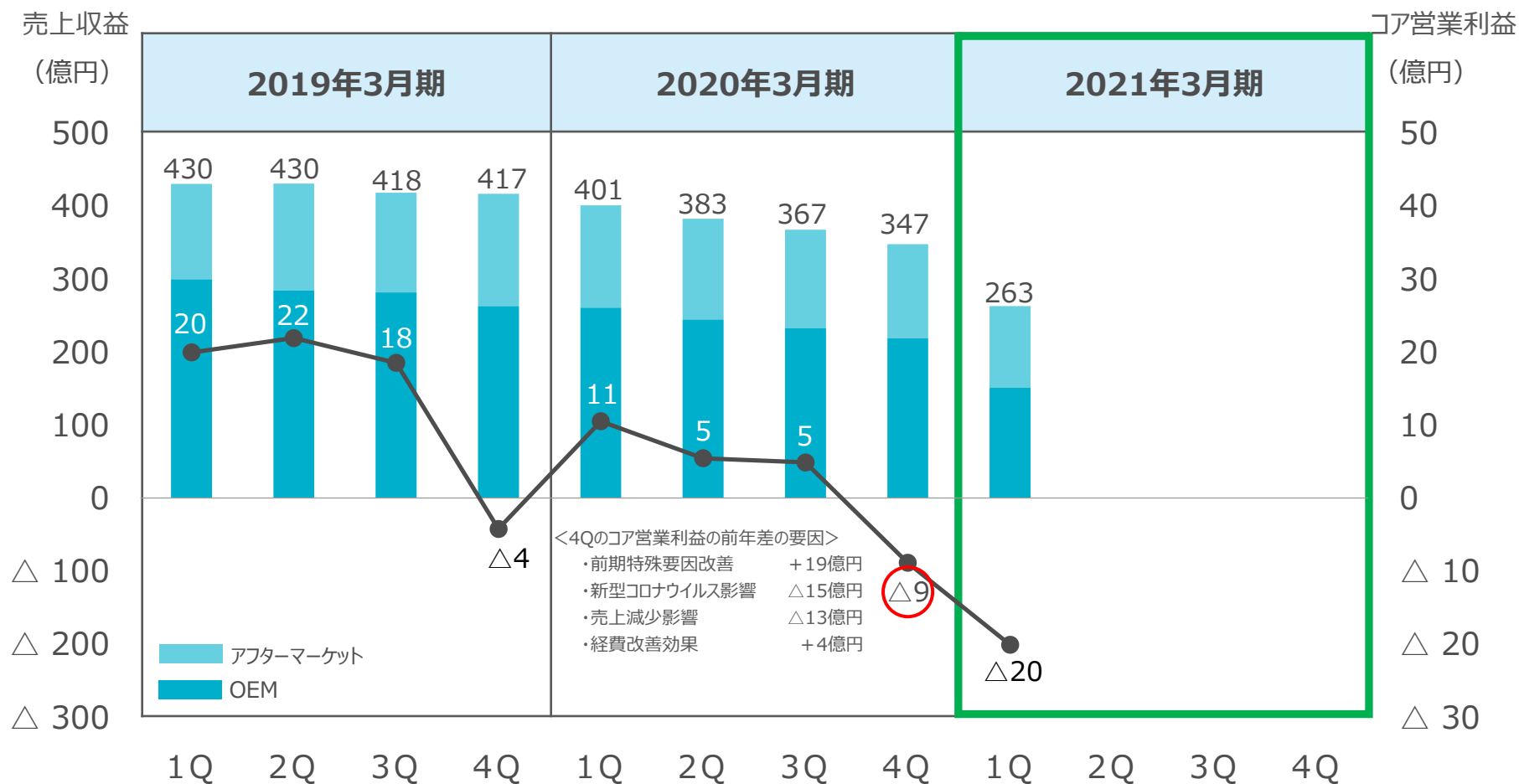
(億円)

		'20/3期 1Q	'21/3期 1Q	増減	前期増減率	要因
オートモーティブ	売上収益	401	263	△ 138	-34.5%	* アフターマーケットは、国内市場で「彩速ナビ」の販売が健闘するも、海外市場で外出禁止令や販売店閉鎖の影響を受け減収。OEMは、純正の販売減、国内の用品及び欧州子会社の販売が新車販売台数減少の影響を受け減収となり、分野全体で減収 * アフターマーケット、OEMともに減収の影響を受けたことから減益
	コア営業利益	11	△ 20	△ 31	-	
パブリックサービス	売上収益	154	105	△ 48	-31.4%	* 無線システムは、主力工場のマレーシア工場が閉鎖となった影響を受けたことに加え、全世界で外出禁止令や販売店閉鎖の影響を受け減収。業務用システムは、国内で発動された緊急事態宣言による設備投資減少の影響を受け減収 * 無線システム、業務用システムともに減収の影響を受けたことから減益
	コア営業利益	△ 6	△ 15	△ 9	-	
メディアサービス	売上収益	142	106	△ 36	-25.3%	* メディアは、映像デバイス、ホームオーディオ、ネックスピーカーなどの販売が好調に推移するも、全世界で外出禁止令や販売店閉鎖の影響を受けたことから減収。エンタテインメントは、国内で発動された緊急事態宣言に伴う販売減から減収 * メディア、エンタテインメントともに減収の影響を受けたことから減益
	コア営業利益	5	1	△ 4	-79.5%	
その他 (DXビジネスなど)	売上収益	40	37	△ 2	-6.1%	* DXビジネスは、テレマティクスソリューション関連の販売が好調に推移したことから増収も、その他の販売減少により分野全体で減収
	コア営業利益	3	3	△ 0	-3.8%	* コア営業利益は前年同期と同水準を確保
合計	売上収益	736	511	△ 225	-30.5%	-
	コア営業利益	12	△ 31	△ 43	-	

2021年3月期1Q決算 連結売上収益・コア営業利益（分野別）



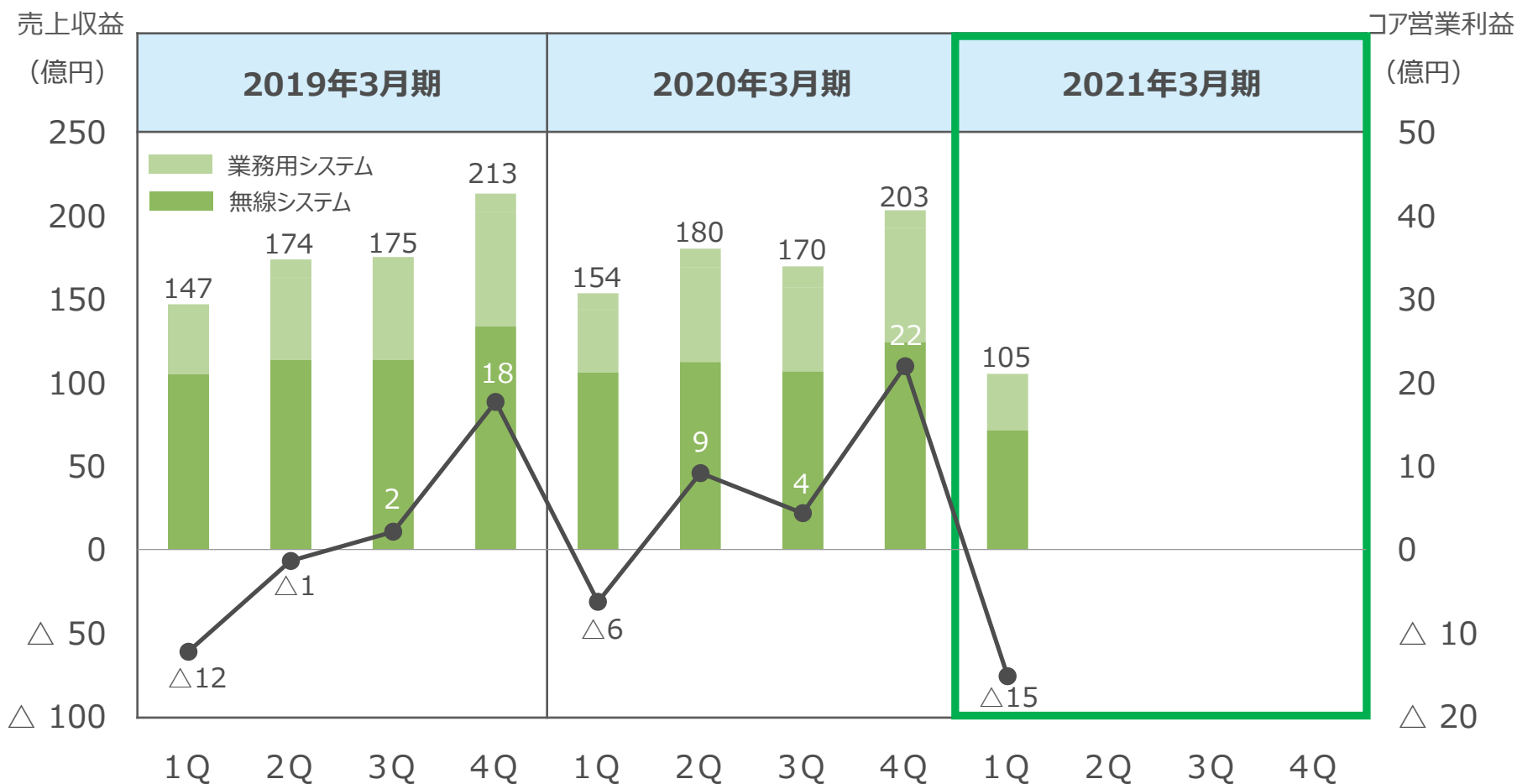
2021年3月期決算 AM分野 四半期別実績推移



(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	861	835	783	715	-	-
コア営業利益	42	14	16	△ 4	-	-

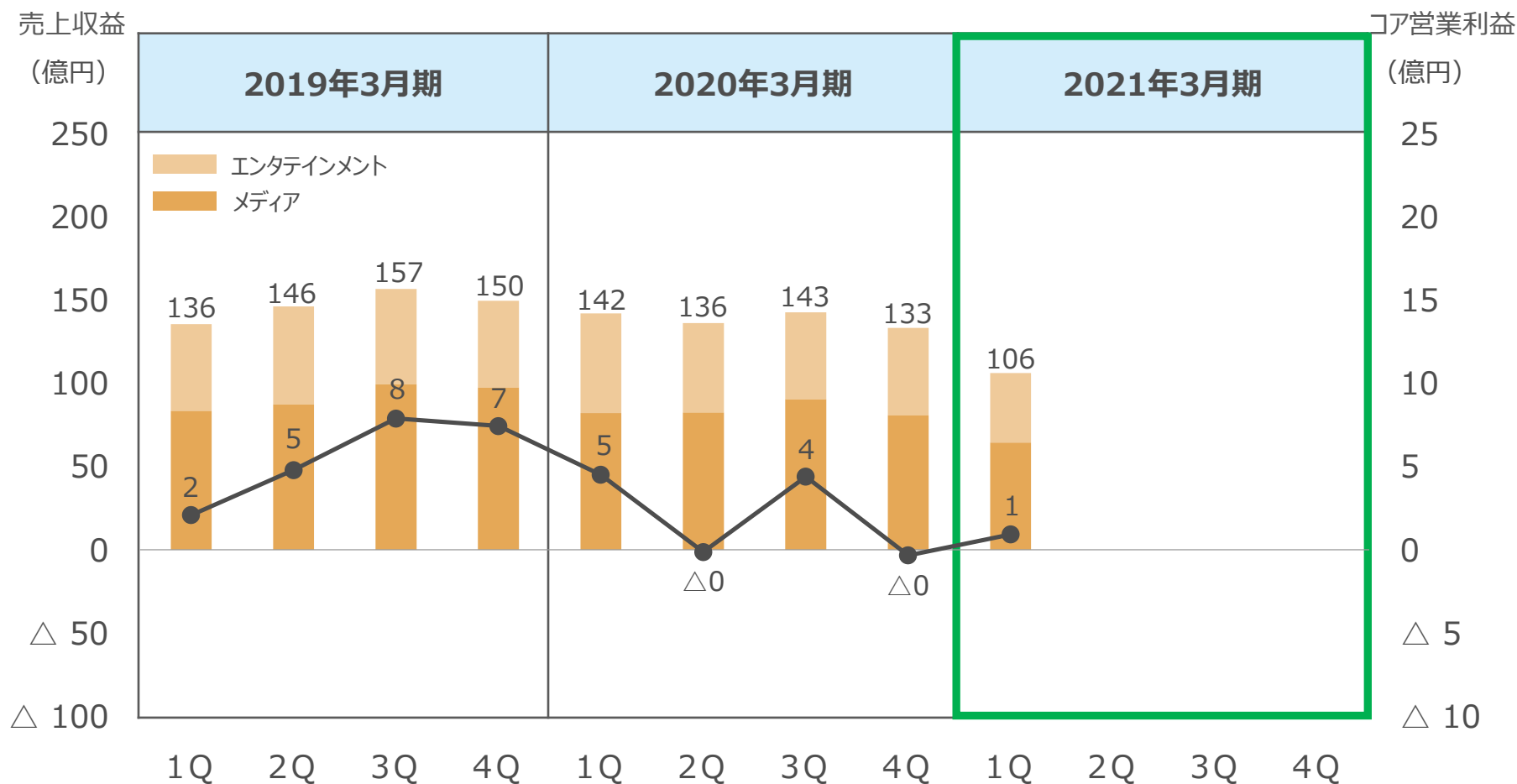
2021年3月期決算 PS分野 四半期別実績推移



(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	321	389	334	373	—	—
コア営業利益	△14	20	3	26	—	—

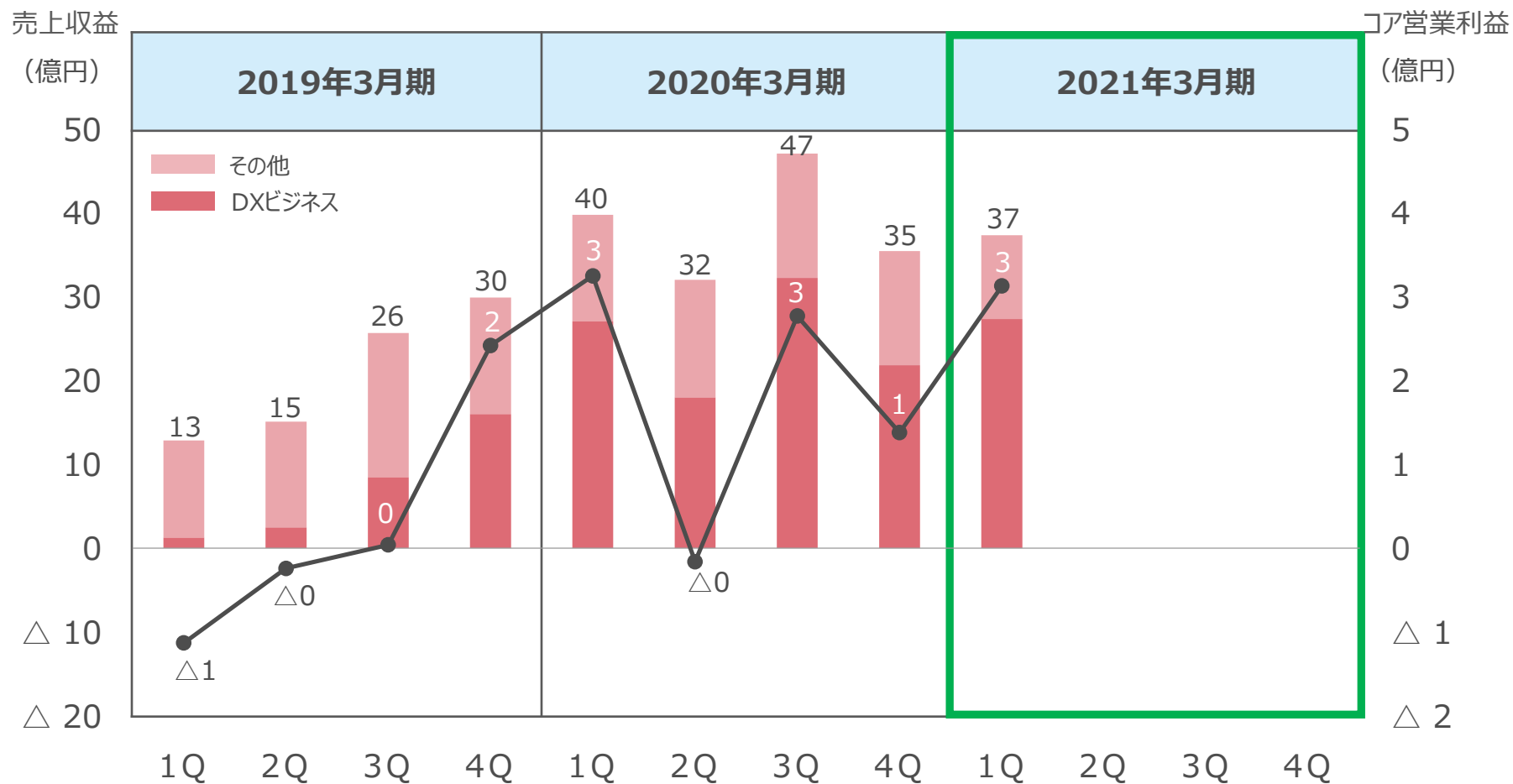
2021年3月期決算 MS分野 四半期別実績推移



(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	282	306	278	276	-	-
コア営業利益	7	15	4	4	-	-

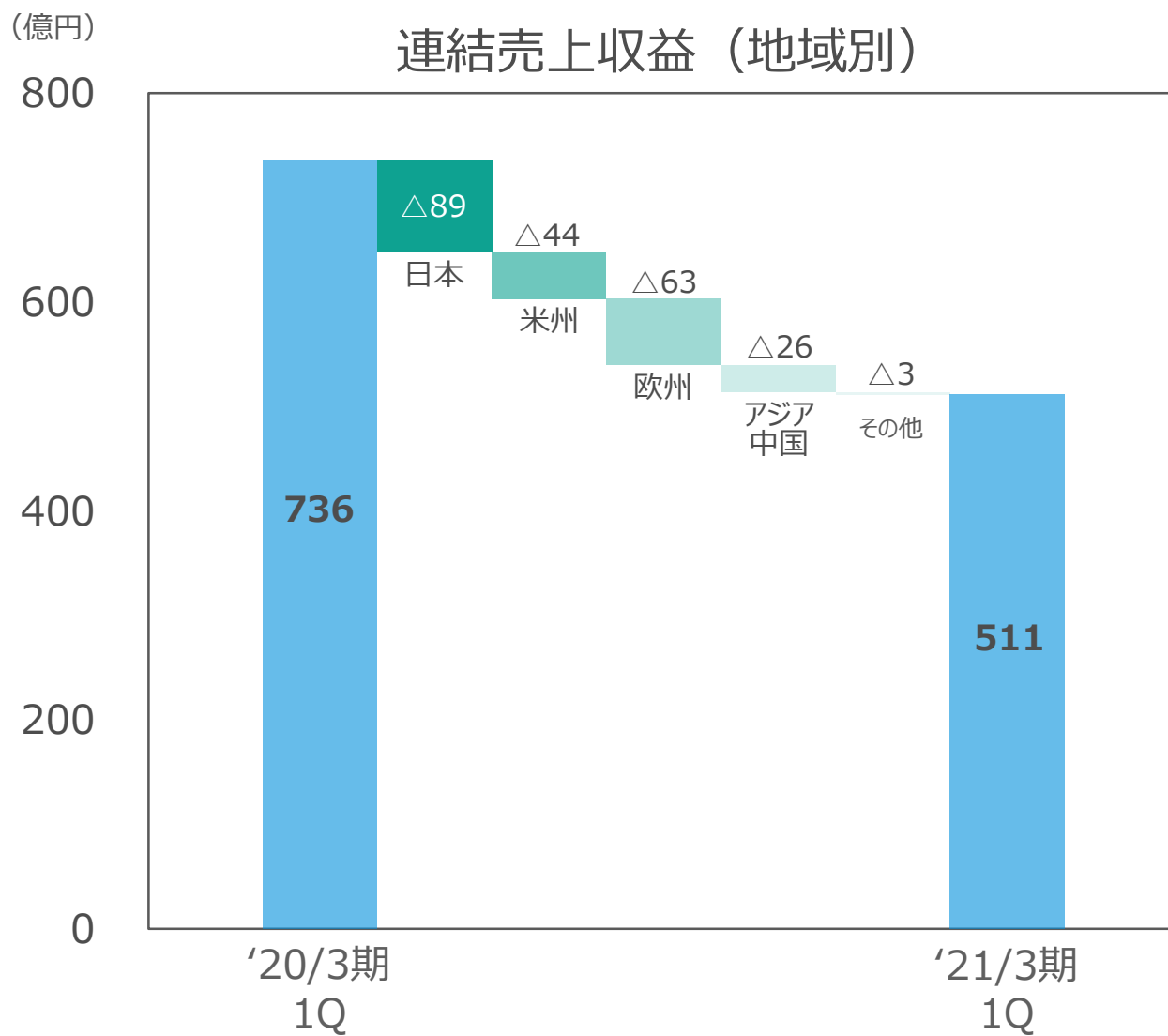
2021年3月期決算 その他分野 四半期別実績推移



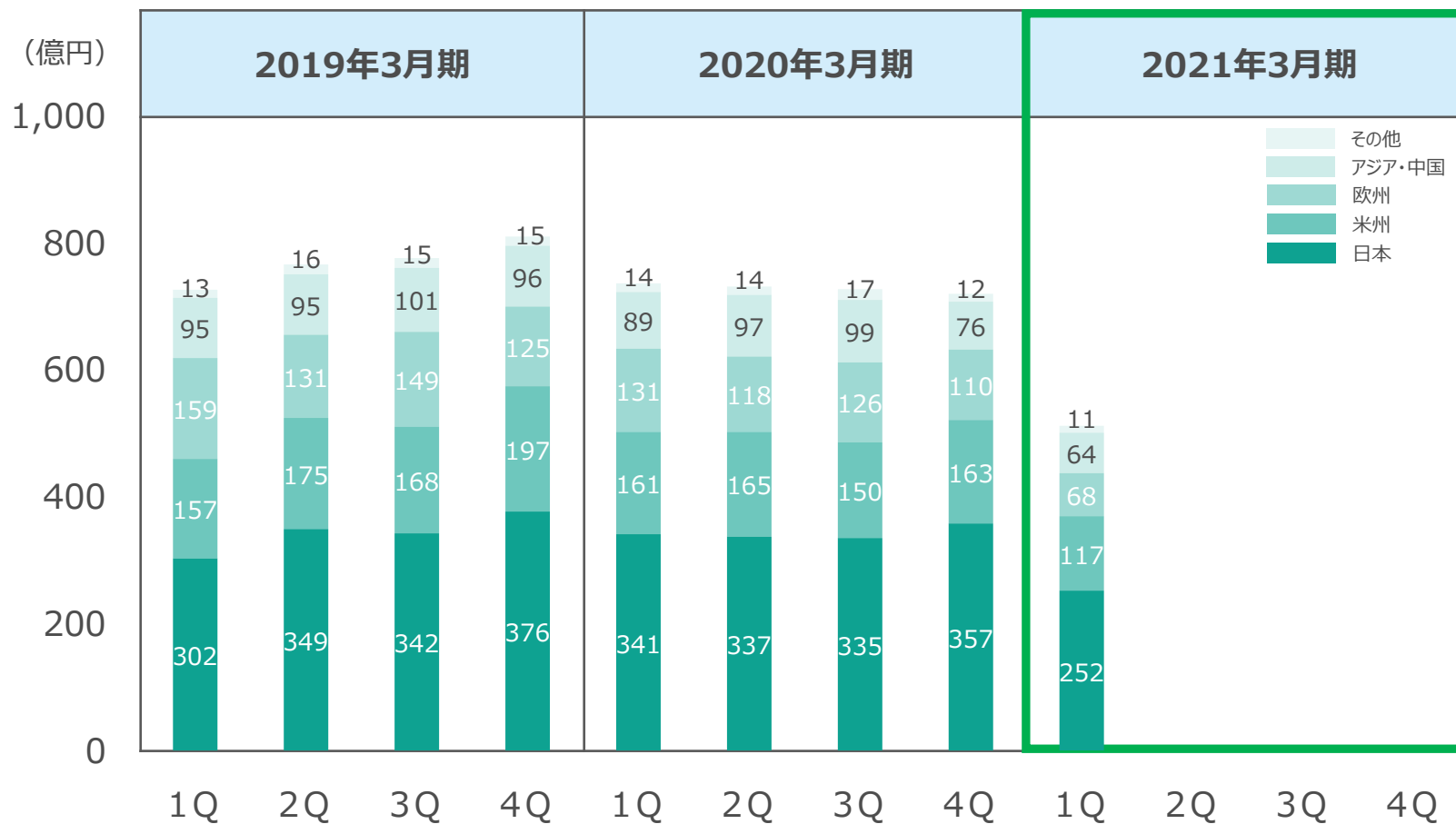
(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	28	56	72	83	-	-
コア営業利益	△1	2	3	4	-	-

2021年3月期1Q決算 連結売上収益（地域別）



2021年3月期1Q決算 地域別連結売上収益推移



	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本	651	718	678	692	-	-
米州	332	366	326	314	-	-
欧州	290	274	249	236	-	-
アジア・中国	190	197	187	175	-	-
その他	28	30	27	29	-	-

2021年3月期1Q決算 連結損益（要約）

- 営業利益は、コア営業利益の減少に加え、その他の収益も減少したことから減益
- 税引前利益は持分法投資損益の改善があったものの減益

（億円）

	20/3期1Q	'21/3期1Q	増減
コア営業利益	12.0	△ 31.2	△ 43.2
その他の収益・費用、為替差損益等	5.7	0.5	△ 5.2
営業利益	17.7	△ 30.7	△ 48.5
金融収支他	△ 1.4	△ 0.3	+ 1.1
税引前利益	16.4	△ 31.0	△ 47.4
法人所得税費用	6.4	3.5	△ 2.9
非支配持分	1.1	1.3	+ 0.2
親会社の所有者に帰属する四半期利益	8.8	△ 35.8	△ 44.7

2021年3月期1Q決算 財政状態サマリー

- 2020年6月末の現預金は383億円、有価証券と併せ手元流動性は406億円を確保（手元流動性比率：1.9ヵ月）
- コミットメントライン約200億円もほぼ未使用で保持

	(億円)		
	'20/3期末	'21/3期1Q	増減
資産合計	2,497	2,343	△ 154
負債合計	1,897	1,779	△ 118
資本合計	600	564	△ 36
有利子負債	746	746	+ 0
ネットデット	347	364	+ 17
ネットD/Eレシオ（倍）	0.61	0.69	+ 0.08
親会社の所有者に帰属する持分	565	531	△ 34
親会社所有者帰属持分比率（%）	22.6	22.6	±0.0

2021年3月期1Q決算 キャッシュ・フローサマリー

- 営業キャッシュ・フローは、税引前四半期損失を計上したことから前期比で大きく減少したものの、投資を抑制したことから投資キャッシュ・フローは大きく支出が減少し、フリー・キャッシュ・フローはプラスを確保
- 財務キャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出が減少したことから、支出が減少

(億円)

	'20/3期1Q	'21/3期1Q	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	82	35	△ 47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 51	△ 32	+ 18
フリー・キャッシュ・フロー (営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー)	31	3	△ 29
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 31	△ 20	+ 10
合計	1	△ 18	△ 19

1. 2021年3月期 第1四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. 今期の主な取り組み

4. With/After COVID-19

2021年3月期 通期業績予想

- 売上収益は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を大きく受けることから減収となる見込み
- 営業利益、税引前利益、親会社の所有者に帰属する当期利益は、減収の影響からそれぞれ減益を見込むが、影響を最小限に留めるよう、4月発足の緊急対策プロジェクトを継続。キャッシュアウトを抑制し、経費削減をさらに強力に推進
- 年間配当予想は、1株当たり5円（期末配当金）とする

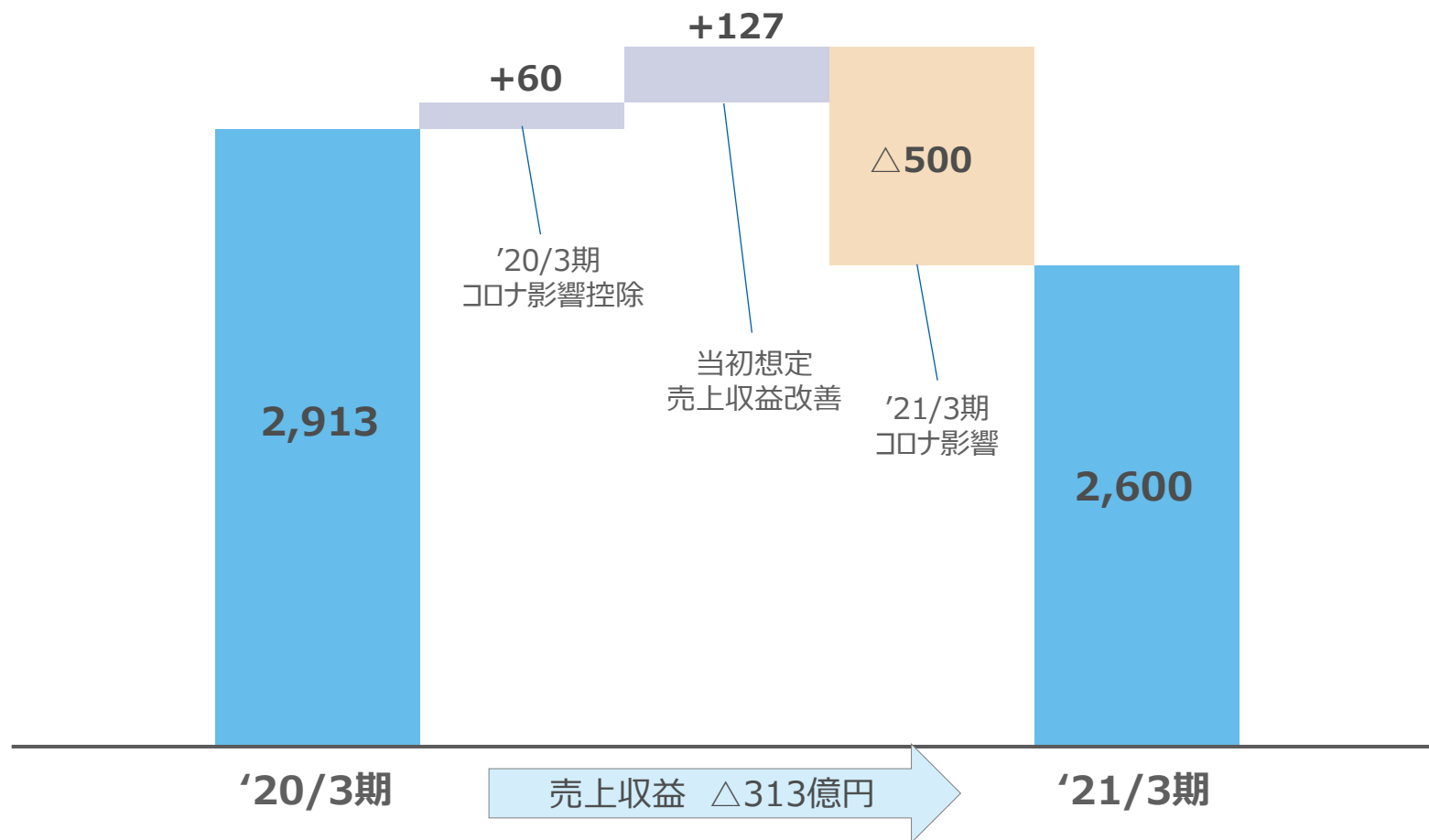
(億円)

	'20/3期 実績	'21/3期 予想	増減
売上収益	2,913	2,600	△ 313
営業利益	41	20	△ 21
税引前利益	29	9	△ 20
親会社の所有者に帰属する当期利益	10	△ 14	△ 24

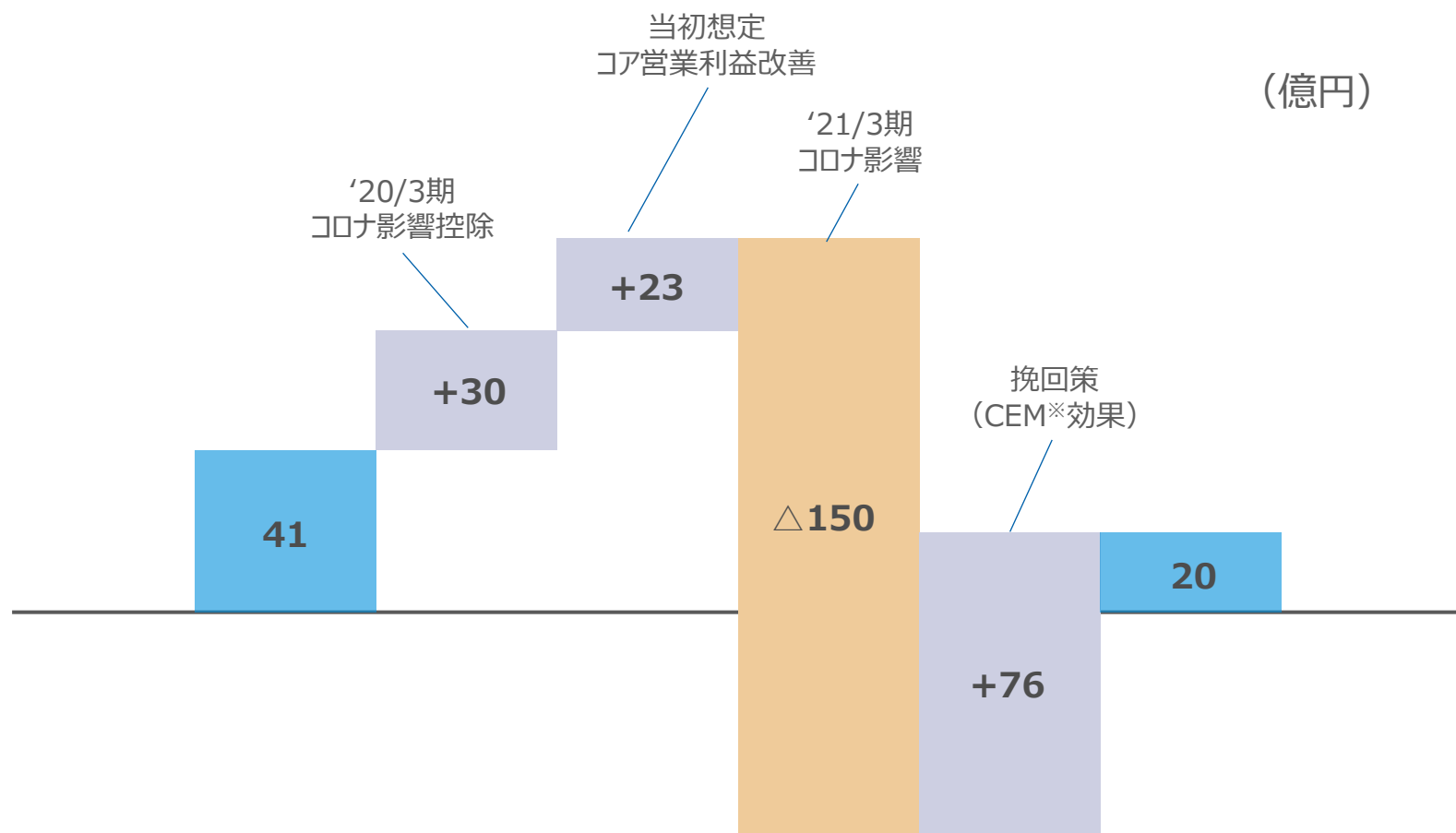
		'20/3期実績	'21/3期想定
損益為替レート	1米ドル	109円	107円
	1ユーロ	121円	120円

2021年3月期 通期業績予想 売上収益増減（要因別）

（億円）



2021年3月期 通期業績予想 営業利益増減（要因別）



'20/3期

営業利益 △21億円

'21/3期

※ CEM…COVID-19 Emergency Measure

新型コロナウイルス感染症の2021年3月期 通期業績予想への影響について

コロナ影響前予想からの影響額：売上収益△500億円、コア営業利益△150億円

■ オートモーティブ分野 売上収益△250億円、コア営業利益△75億円

アフターマーケットは徐々に回復してくるものの年度末まで影響が続く見込み。
OEMは、国内中心に徐々に回復を見込むが、新規商品の導入遅れによる影響が発生

■ パブリックサービス分野 売上収益△100億円、コア営業利益△24億円

無線システムは政府系中心のP/S※1市場は堅調なものの、B/I※2市場は受注が伸び悩み、年度末まで影響が続く。JKPIも国内受注活動が滞り年内は影響が続く見込み

■ メディアサービス分野 売上収益△130億円、コア営業利益△45億円

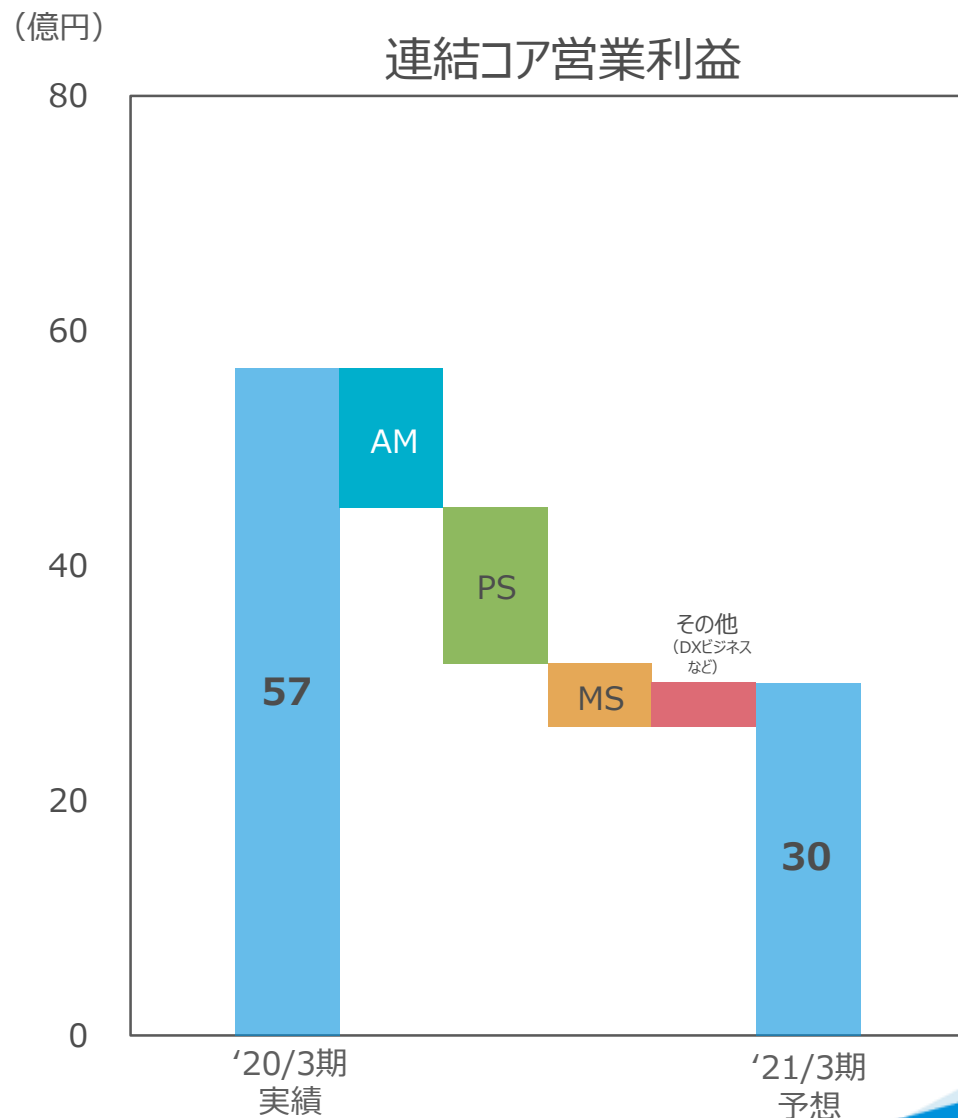
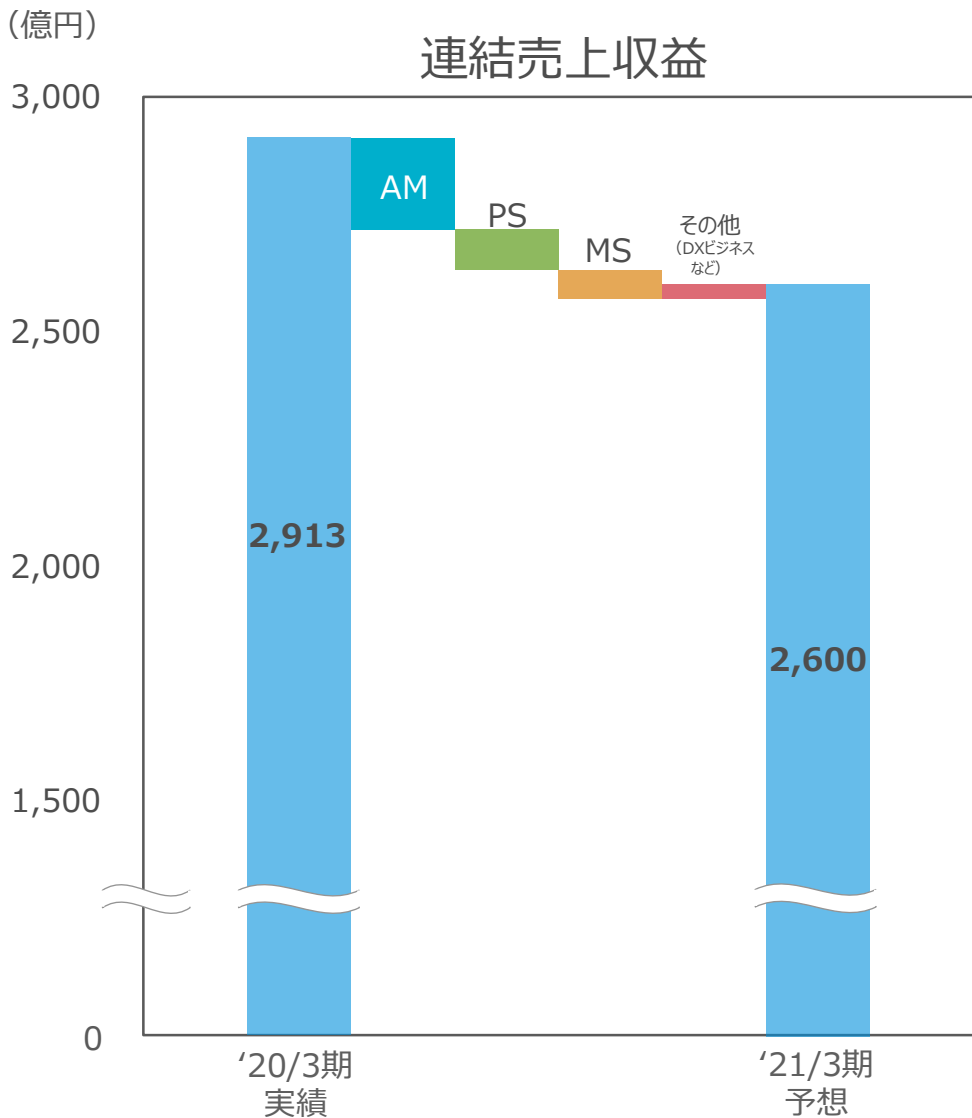
メディアのBtoC事業は海外での販売店閉鎖の影響を受け年内は販売減少、BtoB事業は放送局向けビデオカメラ及びシミュレーター向けプロジェクターが大きく落ち込む見込み。
エンタテインメントは非音源事業が年度内影響続く見込み

■ その他分野 売上収益△20億円、コア営業利益△6億円

DXビジネスは一部事業の導入遅れが発生するものの、テレマティクスソリューション販売全体では好調維持

※1 パブリックセーフティ、※2 ビジネスインダストリー

2021年3月期 通期業績予想 対前年事業分野別



1. 2021年3月期 第1四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. 今後の主な取り組み

4. With/After COVID-19

CEM※プロジェクトの推進と新中長期ビジョンに向けて

※CEM=COVID-19 Emergency Measure
(新型コロナウイルス感染症 緊急対策)

1Q	2Q	3Q	'21 4Q~
----	----	----	---------

CEMプロジェクト

売上下限リスクを想定した
緊急対策の推進

棚卸資産レベルの抑制
設備投資の抑制
開発投資（経費）の削減
固定費（含む人件費）の削減

事業体質の強化

After COVID-19の
事業収益基盤強化への
布石を打つ

After COVID-19 新規ビジネスの構築
固定費構造含めた事業体質の抜本見直し
営業/マーケティング機能の強化
生産/販売拠点の見直し
働き方改革/業務見直し/人員配置の適正化

新中長期ビジョン

中長期成長シナリオの再構築

新中長期ビジョンの策定

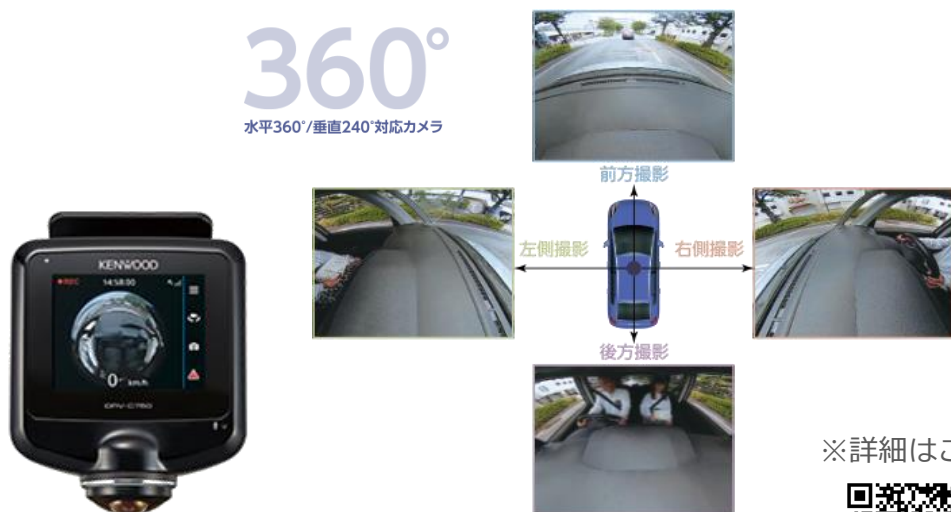
中長期成長に向けたWith/Afterコロナ
事業ポートフォリオの見直し

2020年度
業績予想開示

当期の主な施策 オートモーティブ分野

■ アフターマーケット

- ▶ 北米市場の急激な回復など市場変動に対応したサプライチェーンの強化推進
- ▶ AIセンシング搭載や360°撮影対応のドライブレコーダーなど今期導入新商材（市場強化）製品群での売上規模確保
- ▶ With/Afterコロナの新生活様式に即した製品の市場投入



360°撮影対応モデルを初ラインアップした
ドライブレコーダー

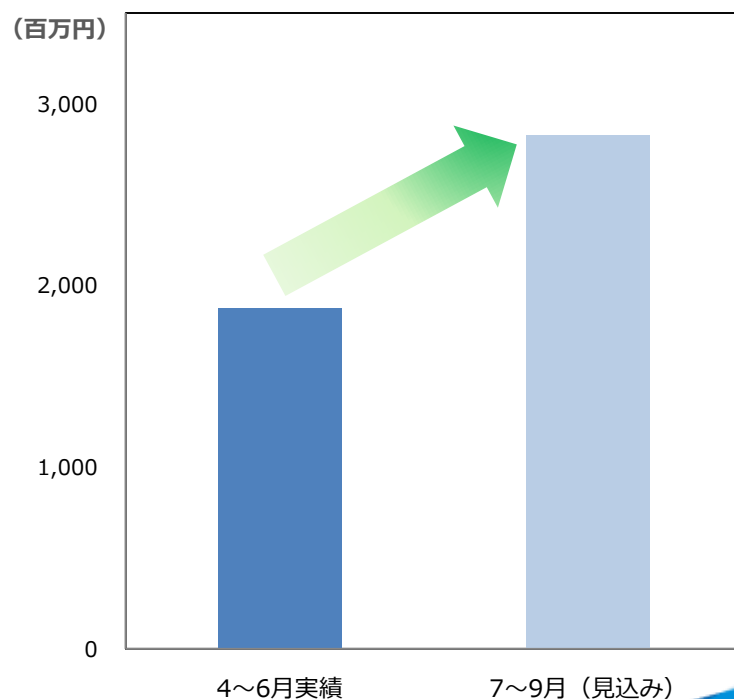
※詳細はこちら



■ OEM

- ▶ コロナ過で増加している小型車、軽自動車に向けたエントリーモデル強化など、顧客要望に対応した製品供給の実践
- ▶ 2Q以降出荷開始予定の新規用品ナビゲーションの安定導入と収益性確保

2020年度の軽自動車向け当社販売金額の推移



当期の主な施策 パブリックサービス分野

■ 無線システム

- ▶ パブリックセーフティ市場における米国無線子会社の案件受注強化
 - Viking VP900増産による需要取り込み
- ▶ 北米ビジネスインダストリー市場におけるデジタル無線規格DMRのシェア拡大
 - NX-1000によるDMR Low Tier市場の販売拡大



警察や消防などのパブリックセーフティ市場で需要が高まっているDual Bandモデル「Viking VP900」

■ 業務用システム

- ▶ コロナ禍での事業活動継続を実現するBCP対策 8 製品・システムの提案による短納期案件の受注強化

■ ヘルスケア

- ▶ 感染症対策用防水型キーボード・マウスなど新商材投入による販売底上げ

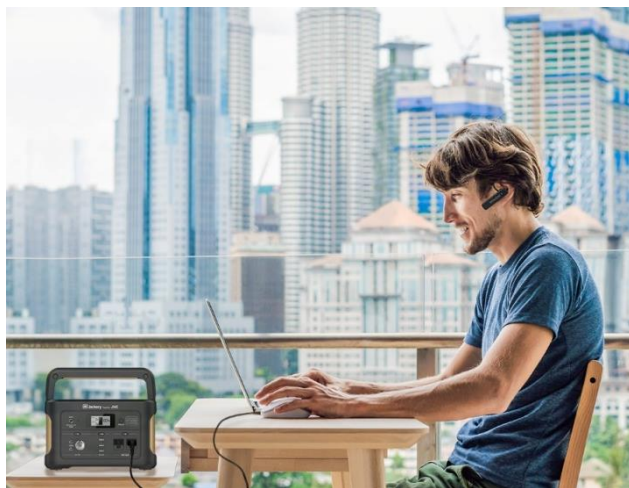


除菌清掃に最適なデザインを採用した感染症対策用防水型キーボード

当期の主な施策 メディアサービス分野

■ メディア

- ▶ 新たな働き方をサポートする商品群の拡大（テレワーク関連商品）
- ▶ 事業のオンライン化に向けた商品群の強化（ライブ配信用カメラ、VR/AR用HMD）



テレワークや非常時の電源確保に最適な
ポータブル電源とポータブルソーラーパネル

■ エンタテインメント

- ▶ オンラインエンタテインメント事業の強化
 - サブスク配信、無観客ライブ配信、ネットサイン会、Eコマース（CD/グッズ）など
 - ライブ配信に特化した会場使用と撮影配信をセットにした“配信ライブサポートプラン”をVeats Shibuyaで8月より期間限定スタート、新たなライブハウス運営へ

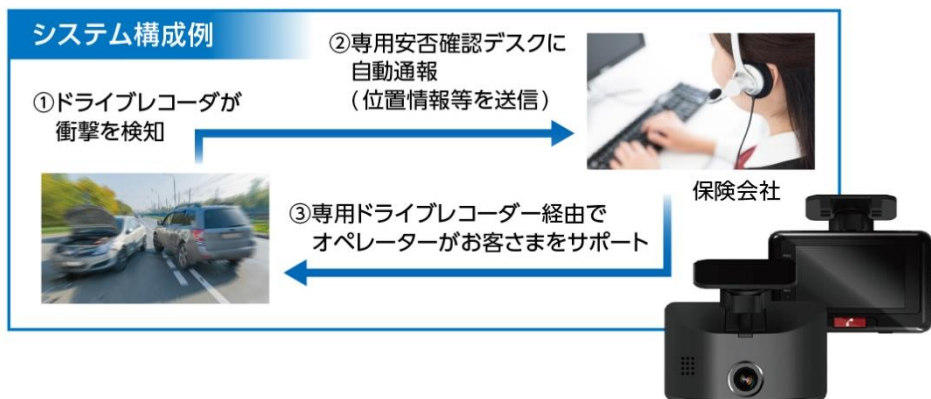


CONNECTED CAM STUDIOを活用した
ライブのオンライン配信を提案

当期の主な施策 DXビジネス

With/Afterコロナで加速する市場のデジタルトランスフォーメーション化を追い風に、MS&ADなど重要パートナーとの協業深耕により新たな事業立ち上げを加速

- 通信型ドライブレコーダーを活用したテレマティクスソリューション事業拡大と、システム開発要員などの組織体制強化
- 「車×サービス」から店舗や工場などの「空間×サービス」へのソリューションビジネス展開



通信型ドライブレコーダーを活用した
テレマティクスソリューションのイメージ



エッジAIカメラを活用した
振り込め詐欺を未然に防ぐソリューションのイメージ

1. 2021年3月期 第1四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. 今後の主な取り組み

4. **With/After COVID-19**

セキュリティカメラと画像解析技術の組み合わせで COVID-19対策ソリューションを提案

With / After
COVID-19



「密」を回避する「人数カウントシステム」

- ネットワークカメラを活用することで、施設内にいる“人数”をリアルタイムで計測。人手に頼らず、店舗や各種施設における「密」を回避
- 店舗での入場規制や従業員の配置など、混雑状況に応じた施設の運営に活用



非接触・短時間で体表温度を測定するシステム

- 施設や学校、病院などで、非接触かつ短時間で体表温度を測定するシステム
- AIを活用した顔認識システムと組み合わせることで、マスクをしたままでも顔の検出、認証が可能





新しい生活をCreateするソリューション

ワイヤレスシアターシステム「EXOFIELD THEATER」

- 当社独自の頭外定位音場処理技術「EXOFIELD」を搭載した「EXOFIELD THEATER」を新発売
- 自宅にいながら映画館やライブ会場、スタジアムにいるような立体音場を体験でき、おうち時間を豊かにするパーソナルなシアターシステムとして提案

※詳細はこちら



虜になる、
かつてない開放感。



サラウンドでも、バーチャルでもない
EXOFIELDという新技術

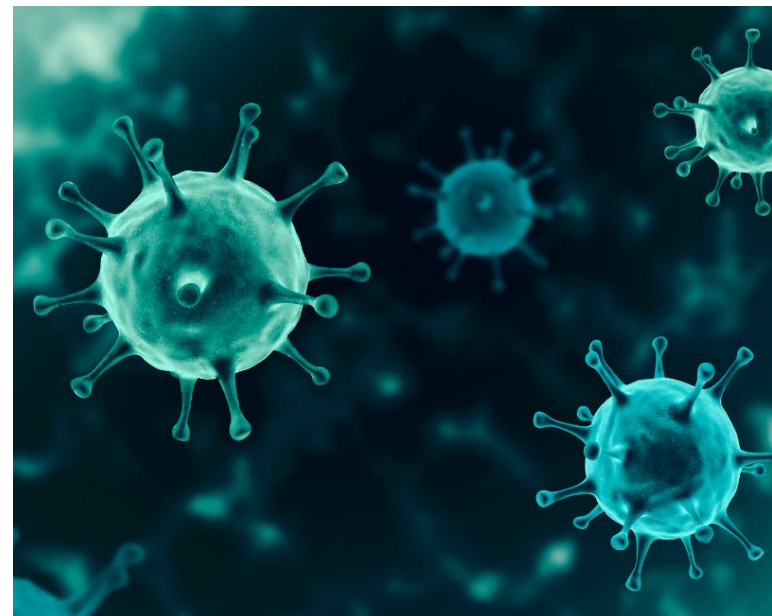
COVID-19のパンデミックを抑止するための 高感度かつ簡易な診断機器の開発

With / After
COVID-19



光ディスクで培った技術の応用で新たな取り組み

- 徳島大学ポストLED フォトニクス研究所 (pLED) が有する最先端光科学技術の応用による COVID-19 ウイルス RNA/抗原の新規検出法の実用化に向けた産学連携コンソーシアムに参画
- 光ディスクで培った光検出技術および微細加工技術を活用し、「SPR検出用デバイス」と「超高感度SPR装置」を中長期的な展開も視野に入れて開発



参画機関／企業

- ・ 徳島大学ポストLED フォトニクス研究所
- ・ 徳島大学大学院医歯薬学研究部
- ・ 大阪大学微生物病研究所
- ・ 神戸大学大学院保健学研究科
- ・ 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
- ・ 株式会社カン研究所
- ・ シスメックス株式会社
- ・ 株式会社JVCケンウッド

開発イメージ

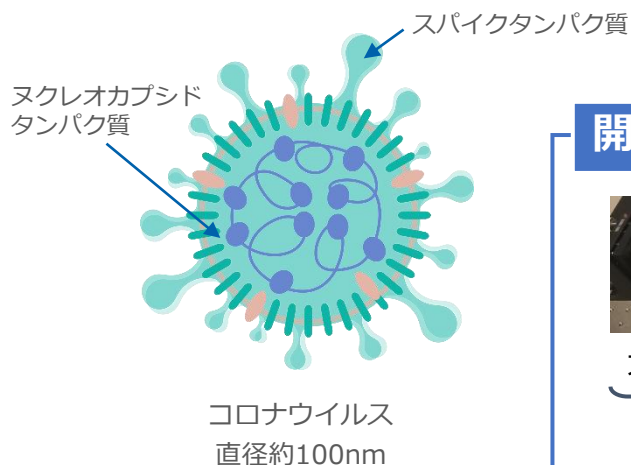


光源 試料注入 検出 制御

小型機器
(パッケージ化)

+

検出キット



JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。